

「男はつらいよ」を考える

この10月から「男はつらいよ」48作が毎週土曜日に放映されることになった。この企画はNHKを含め3度目で人気があるようです。

この映画の舞台は、ご承知の通り東京都葛飾区で、寅さんは柴又で、私は亀有でそれぞれ生まれ育った。映画のイントロと主要な場面に出てくる江戸川は、私の中学校時代の葛飾区連合運動会の舞台であった。そんな親近感から私は全48作品を観た。

ところでこの世界の映画史上類のない長寿を保つことが出来た映画の魅力はなんなのか考えてみると数々の社会派映画を作った原作・監督の山田洋二が描く優しさと福祉性ではないかと私はこじつけている。

寅さん映画の一つのパターンである寅さんの失恋も面白いのですが、私は破天荒でわがままな寅さんを包み込む「団子屋とらや」おいちゃん・おばちゃん・さくらの優しさ、また旅先で寅さんが知り合った様々なわけあり人が「団子屋とらや」を訪ねてくるシーンが好きです。様々な来訪者に対し「団子屋とらや」のおいちゃん・おばちゃん・さくら・ひろし、そしてタコ社長らが親身になって会話するシーンは人間の優しさを感じます。そして損得勘定を考えずに様々な支援をするとらやの皆さんに感動することはしばしばです。

「団子屋とらや」は自然の福祉施設に見えます。毎週土曜日が楽しみです。因みに放送局はBS7です。(K・U)